

受験番号

氏名

生年月日

3 級

簿記 3 級 メイプル模擬試験

2025 年 11 月向

問 題 用 紙

(制限時間 60 分)

簿記の教室 メイプル

第1問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（ ）の中に記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

- 商品（本体価格¥250,000）を仕入れ、代金は10%の消費税を含めて掛けとした。なお、消費税は税抜方式で処理する。
ア. 仕入 イ. 仮受消費税 ウ. 仮払消費税 エ. 未払消費税 オ. 買掛金
カ. 租税公課
- 商品¥100,000 を売り上げ、代金のうち¥60,000 は共通商品券で受け取り、残額は現金で受け取った。
ア. 受取手数料 イ. 受取手形 ウ. 受取商品券 エ. 売掛金 オ. 売上 カ. 現金
- 株式会社の設立にあたり、株式2,000株を1株当たり¥800で発行し、払込金額は普通預金とした。
ア. 資本金 イ. 利益準備金 ウ. 繰越利益剰余金 エ. 未払配当金 オ. 普通預金
カ. 当座預金
- 社会保険料について、すでに源泉徴収した従業員負担分¥65,000と当社負担分¥65,000の合計額を普通預金口座から納付した。
ア. 従業員立替金 イ. 所得税預り金 ウ. 社会保険料預り金 エ. 法定福利費
オ. 租税公課 カ. 普通預金
- かねて借方計上していた現金過不足¥10,500の原因を調査したところ、同額の手数料の受取りが二重記帳されていることが判明した。
ア. 現金 イ. 現金過不足 ウ. 支払手数料 エ. 受取手数料 オ. 雑益 カ. 雑損
- 当期首に、4年前の期首に取得した備品（取得原価¥1,200,000、残存価額ゼロ、耐用年数6年）を¥120,000で売却し、代金は月末に受け取ることとした。なお、この備品は定額法で減価償却を行い、間接法で記帳している。
ア. 普通預金 イ. 未収入金 ウ. 備品 エ. 備品減価償却累計額 オ. 固定資産売却益
カ. 固定資産売却損
- 普通預金口座から当座預金口座に¥500,000を振り替えた。
ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 普通預金 エ. 定期預金 オ. 受取利息 カ. 支払利息
- 得意先に対する売掛金¥78,000（前期販売分）が貸し倒れた。なお、貸倒引当金の残高は¥125,000である。
ア. 売掛金 イ. 支払手数料 ウ. 貸倒引当金 エ. 償却債権取立益 オ. 貸倒損失
カ. 貸倒引当金繰入

メイプル模擬試験答案用紙

3 級 ①

商 業 簿 記

採 点 欄

第
1
問

第 1 問 (45 点)

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
1	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
2	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
3	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
4	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
5	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
6	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
7	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
8	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

(次ページに続く)

9. 店舗を建てる目的で土地¥3,000,000を購入し、不動産会社への手数料¥120,000を含めた合計額を、小切手を振り出して支払った。
ア. 現金 イ. 当座預金 ウ. 建物 エ. 土地 オ. 支払手数料 カ. 租税公課
10. 以前注文していた商品¥270,000を受け取り、注文したときに手付金として支払っていた¥50,000を差し引いた金額を掛けとした。
ア. 仮払金 イ. 前払金 ウ. 前受金 エ. 未払金 オ. 仕入 カ. 買掛金
11. 本日(期首)、前期末に費用勘定から貯蔵品勘定に振り替えた郵便切手¥5,400と収入印紙¥22,000について、適切な勘定に振り戻した。
ア. 貯蔵品 イ. 広告宣伝費 ウ. 通信費 エ. 諸会費 オ. 租税公課 カ. 雑損
12. 得意先に対する売掛金¥400,000について、取引銀行から電子記録債権の発生記録の通知を受けた。
ア. 電子記録債権 イ. 電子記録債務 ウ. 受取手形 エ. 売掛金 オ. 未収入金
カ. 受取利息
13. かねて約束手形を受け取って松江商会株式会社に貸し付けていた¥1,000,000の満期日になり、同額が当座預金口座に振り込まれたので、約束手形を同社に返却した。
ア. 受取手形 イ. 支払手形 ウ. 手形貸付金 エ. 手形借入金 オ. 売上
カ. 当座預金
14. 建物の賃貸借契約を解約し、契約時に支払っていた保証金(敷金)¥360,000について、修繕費¥125,000を差し引かれた残額が普通預金口座に振込まれた。
ア. 建物 イ. 修繕費 ウ. 支払家賃 エ. 支払地代 オ. 普通預金 カ. 差入保証金
15. 店頭における一日分の売上の仕訳を行うにあたり、集計結果は次の売上集計表のとおりであった。合計額のうち¥12,000は現金決済、残額はクレジットカード決済であった。なお、クレジットカード決済額の4%を手数料として計上し、クレジットカード会社に対する債権から控除する。

売 上 集 計 表			
×5年10月30日			
品 名	数量	単価	金 額
商品A	68	¥ 750	¥ 51,000
商品B	30	¥ 1,200	¥ 36,000
合 計			¥ 87,000

- ア. 現金 イ. 売上 ウ. 買掛金 エ. 受取手数料 オ. クレジット売掛金
カ. 支払手数料

メイプル模擬試験答案用紙

3 級 ②

商 業 簿 記

採 点 欄

第
1
問

(前ページより)

	借 方		貸 方	
	記 号	金 額	記 号	金 額
9	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
10	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
11	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
12	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
13	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
14	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	
15	()		()	
	()		()	
	()		()	
	()		()	

第2問 (20点)

- (1) 当社の10月中の買掛金に関する取引の勘定記録は以下のとおりである。下記勘定の空欄のうち、(A)～(E)には次に示した【語群】の中から適切な語句を選択し記入するとともに、(①)～(⑤)には適切な金額を記入しなさい。なお、仕入先は下記2社のみであり、各勘定は毎月末に締め切っている。

【語群】

前月繰越 次月繰越 現 金 普通預金 仕 入 買 掛 金

総勘定元帳					
買 掛 金					
10/ 8	仕 入	(①)	10/ 1	前 月 繰 越	780,000
()	仕 入	()	()	()	480,000
20	(A)	(②)	14	(D)	(③)
25	(B)	260,000			
31	(C)	900,000			
		()			()

買 掛 金 元 帳					
千 葉 商 事					
10/ 8	()	()	10/ 1	()	460,000
20	現 金 払 い	330,000	6	仕 入 れ	()
31	()	(④)			
		940,000			940,000

埼 玉 商 事					
10/17	返 品	(⑤)	10/ 1	(E)	()
25	普通預金払い	()	14	仕 入 れ	350,000
31	()	370,000			
		670,000			670,000

- (2) 当社では毎年9月1日に向こう1年分の保険料¥30,000を支払っていたが、今年の支払額は10%アップして¥33,000となった。そこで、この保険料に関連する下記の勘定の空欄のうち、(イ)～(ハ)には次に示した【語群】の中から適切な語句を選択し記入するとともに、(a)～(b)には適切な金額を記入しなさい。なお、会計期間は1月1日から12月31日までであり、前払保険料は月割計算している。

【語群】 現 金 未 払 金 保 険 料 前払保険料
未払保険料 前期繰越 次期繰越 損 益

保 險 料			() 保 險 料		
1/ 1 (イ) ()	12/31 () ()		1/ 1 () (a)	1/ 1 () ()	
9/ 1 現 金 33,000	" (口) ()		12/31 () ()	12/31 (ハ) ()	
()	()		42,000	42,000	
1/ 1 () (b)			1/ 1 () ()	1/ 1 () ()	

メイプル模擬試験答案用紙

3 級 ③

商 業 簿 記

採 点 欄

第
2
問

第 2 問 (20 点)

(1)

(A)	(B)	(C)	(D)	(E)

①	②	③	④	⑤

(2)

(イ)	(ロ)	(ハ)	(a)	(b)

第3問 (35点)

次の(1)決算整理前残高試算表と(2)決算整理事項等にもとづいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、消費税の仮受け・仮払いは、売上取引・仕入取引についてのみ行うものとし、(2)決算整理事項等の8.以外は消費税を考慮しない。会計期間は×5年4月1日から×6年3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

借 方	勘 定 科 目	貸 方
264,000	現 金	
1,480,000	普 通 預 金	
741,000	売 掛 金	
600,000	仮 払 金	
615,000	仮 払 消 費 税	
350,000	繰 越 商 品	
2,100,000	建 物	
480,000	備 品	
2,000,000	土 地	
	買 掛 金	520,000
	借 入 金	1,500,000
	仮 受 金	120,000
	仮 受 消 費 税	900,000
	貸 倒 引 当 金	1,500
	建物減価償却累計額	980,000
	備品減価償却累計額	240,000
	資 本 金	3,000,000
	繰越利益剰余金	1,230,000
	売 上	9,000,000
6,150,000	仕 入	
2,160,000	給 料	
58,000	旅 費 交 通 費	
101,500	通 信 費	
218,000	水 道 光 熱 費	
144,000	保 険 料	
30,000	支 払 利 息	
17,491,500		17,491,500

(2) 決算整理事項等

- 現金の実際有高は¥261,500であった。帳簿残高との差額のうち¥2,000は通信費の記入漏れであることが判明したが、残額は不明のため、雑損または雑益として処理する。
- 売掛代金の普通預金口座への入金¥123,000の取引が、誤って¥132,000と記帳されていたので、その修正を行った。
- 仮払金は、×5年10月1日に購入した建物に対する支払いであることが判明した。
- 仮受金は、かつて倒産した得意先に対する売掛金にかかる入金であることが判明した。なお、この売掛金は前期に貸倒処理済みである。
- 売掛金の期末残高に対して3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は¥400,000である。
- 有形固定資産について、以下の要領で定額法により減価償却を行う。期中購入の建物についても同様に減価償却を行うが、月割計算する。
建物：耐用年数30年、残存価額ゼロ
備品：耐用年数6年、残存価額ゼロ
- 消費税(税抜方式)の処理を行う。
- 借入金は当期の5月1日に借入期間1年、利率年4%で借り入れたものであり、利息は10月末日と返済日に6か月分をそれぞれ支払うことになっている。利息の計算は月割りによる。
- 未払法人税等¥30,000を計上する。なお、当期に中間納付はしていない。

メイプル模擬試験答案用紙

3 級 ④

商 業 簿 記

採 点 欄

第
3
問

第 3 問 (35 点)

貸 借 対 照 表

×6 年 3 月 31 日

(単位 : 円)

現 金 ()	買 掛 金 ()
普 通 預 金 ()	借 入 金 ()
売 掛 金 ()	() 消費税 ()
貸 倒 引 当 金 (△) ()	未 払 法 人 税 等 ()
商 品 ()	未 払 費 用 ()
建 物 ()	資 本 金 ()
減価償却累計額 (△) ()	繰越利益剰余金 ()
備 品 ()	
減価償却累計額 (△) ()	
土 地 ()	
()	()

損 益 計 算 書

×5 年 4 月 1 日から ×6 年 3 月 31 日まで

(単位 : 円)

売 上 原 価 ()	売 上 高 ()
給 料 ()	() ()
旅 費 交 通 費 ()	
通 信 費 ()	
水 道 光 熱 費 ()	
保 険 料 ()	
貸 倒 引 当 金 繰 入 ()	
減 価 償 却 費 ()	
支 払 利 息 ()	
() ()	
法人税、住民税及び事業税 ()	
当 期 純 ()	()
()	()